



Recent Movement of the Japanese Government and Japanese Right-wind Nationalists and their Recognition of History

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科
岡野八代

報告の内容

・はじめに 日本政府も認めてきた、「慰安所」制度の歴史

1) 1991年 告発の衝撃

・研究・調査の始まり

・政治的・社会的バックラッシュの始まり

2) 日本におけるナショナリズムとはなにか？

・「慰安婦」問題が突きつける、日本政治の問題の核心への反動

3) 歴史の反省と民主主義の成熟

・おわりに 法的・政治的な解決にむけて≠ 道徳的責任論



江華島条約(1876年)以後、「公娼制」
へと再編されていく妓生養成所

- 最初の開港地であった釜山にも、日本人売春業者が続々流入。
- 1882年釜山領事が「貸座敷及び芸娼妓に関する布達」を發布。
 - ＝貸座敷と芸娼妓は領事館に毎月税金を納める。
 - ＝芸娼妓は「営業鑑札」を警察署を通じて、領事館から得ていた。
 - ＝梅毒検査を行う。
- ・日清戦争(1894年)で軍人・日本人居留民が広がると、売春業はさらに広がった。

はじめに 日本政府も認めてきた、「慰安所」
制度の歴史 1. 帝国主義



1905年日露戦争・旅順陥落

- 1400人以上の日本人売春婦が、満州関東地域に在留していた。非戦闘員の約54%。
 - 軍人たちは、売春宿を利用していたが、性病の蔓延をおそれた軍当局は、軍人許可制度を直ちに導入。業者に定期的に売春婦の性病検査を徹底させた。
- ＝ただ、当時は、民間業者が自主的に設置し、この段階で軍当局が管理したのは、性病予防対策の徹底に限定されていた。

はじめに 2

日露戦(1904年)争を期に、軍の介入が始まる

滿洲已賣却騙財

釜山、犯人急逮捕

【釜山】정읍 군수박기복(朴奇福)의
山府廳副廳)二점씩五人 全개입차
전주(田斗)의()은 지난十一
월十五일 부산부 부총청(釜山府
賣水町)一점씩 월척리관(月屋旗
館)에 투숙중에잇는 부산부본청
(釜山府本町)五점씩四六 하(下)
이코(下)인이고()와 통영(通寧)

서경(統營)是陽町)二天 此(此)정청
(實親署)()하二명의 처녀를
유언하여 만주로 취직시켜준다고
감안(檢案)되인후 자기가 친지
인것같이 유착으로 판다는 위임
장을 위조하여 그들에게 각각一
百五十원씩을 어디쓰고싶든곳에
쓰라고 준다음 만주방면으로 수

서경(統營) 陽町(二十六) 판문정(平門正) (音譯) 善(也) 등(二) 명의 처녀를 유인하여 만주로 취직시켜준다고 감언이설로 꾀어주자기가 친견민것같이 유박으로 판다는 위임장을 위조하여 그들에게 각각二百五十원씩을 어디쓰고 싶은 곳에 쓰라고 준다는 만주방면으로 수백명씩에 매각하려고 군산으로 데리고가는것을 소관 부산경찰서에 서 탐지 체포하고 발그릇을중추조중인데 이자는 소위소개업이란간판에서 이러한수단으로 양가의 처녀를 다수유인매각한 여자가만타하여 거들조중중이다.

- 1920年代より、「労働周旋業者」によって、多くの朝鮮人女性が満州へ
 - 日本の行政機関、軍隊、商業組織が足場を固めていた東北アジアでは、すでに「慰安婦制度」に移行できる基盤ができていた。
- ＝この地域ですでに存在していた商業売春組織を軍当局が直接支配し、それを軍専用の性奴隷制度へと活用していけばよかった。

『東亞日報』1938年12月4日の記事

はじめに 3

1910年：朝鮮半島の植民地化

昔の戦役時代には慰安婦などには無かったものである。斯く申す私は恥かしながら慰安婦案の創設者である。昭和七年の上海事変のとき二、三の強姦罪が発生したので、派遣軍参謀副長であった私は、同地海軍に倣い、長崎県知事に要請して慰安婦団を招き、その後全く強姦罪が止んだので喜んだものである。

現在の各兵団は、殆んどみな慰安婦団を随行し、兵站の一分隊となっている有様である。第六師団の如きは慰安婦団を同行しながら、強姦罪は跡を絶たない有様である。

岡村寧次大將



陸軍で慰安所を推進した
派遣軍参謀副長岡村寧次

はじめに4 1931年満州事変、1932上海事変(=初の「慰安所」設置)、1937年日中戦争開始

イロイロ兵站支部医務室「検ばい成

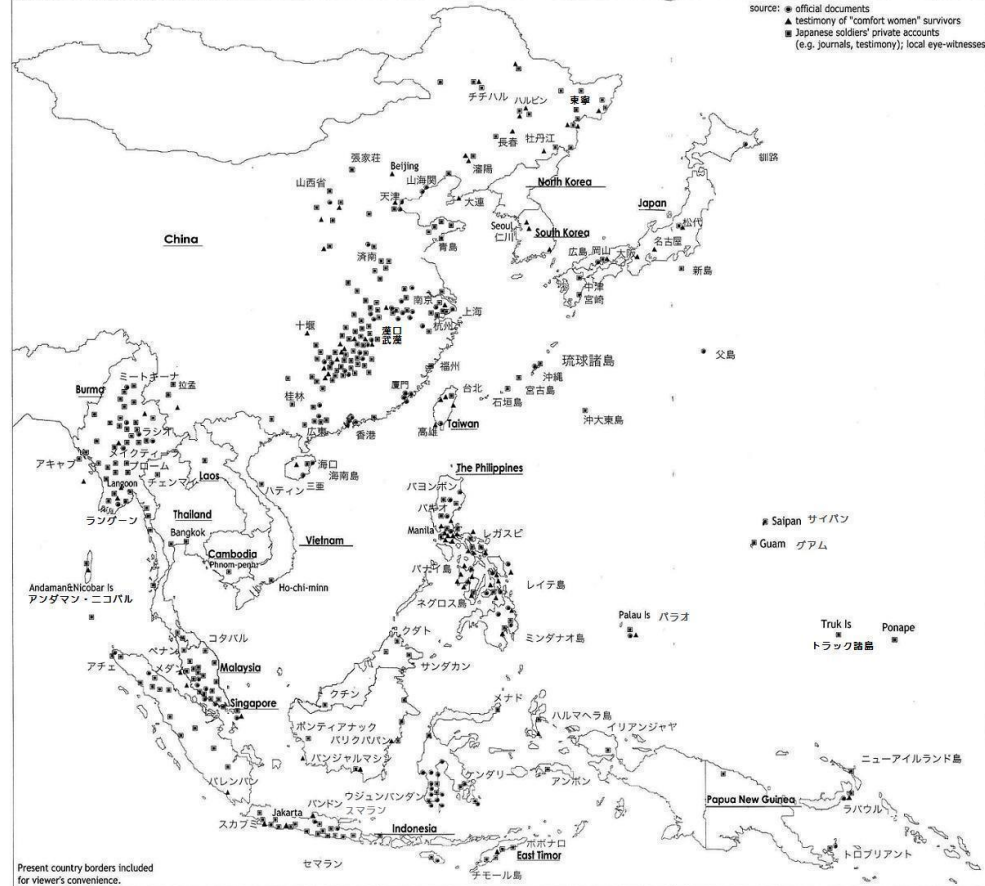
[illegible]

現地部隊が各種の規定を設定。慰安婦の休日は、月に一日あるいは二日のみ。

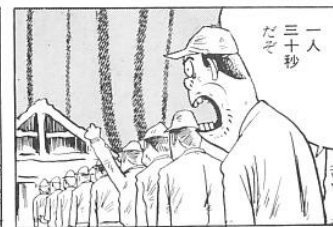
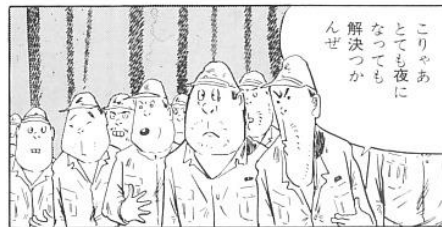
はじめに5

1925年に批准した「婦人・児童の売買禁止に関する国際条約」にもかかわらず・・・

Where "Comfort Stations" Were



はじめに6
最前線にまで広がる慰安所設置地域



はじめに 7
水木しげる『総員玉碎せよ！』(1973年)より
舞台はニューブリテン島

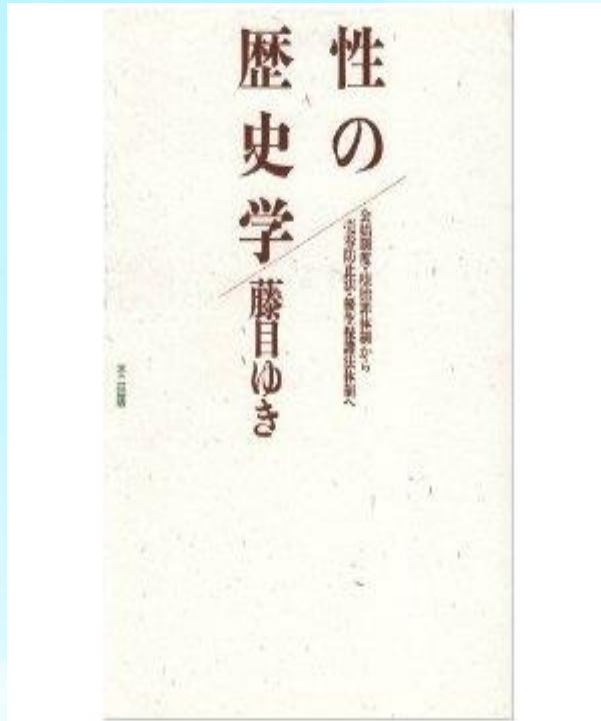


1991年8月14日初めて公開証言

「本当に腹立たしくて、悔しくて、言葉では言い表すことができません。その時も、どれほどびっくりして、辛かったか、言葉では表現ができないんです。あの頃のことを思い出さないようにしようと思っても、どうすればいいのかわかりません。

私が今、洞会(町役場)がくれる10キロと3万ウォンのお金にすがたって一か月を暮らす哀れな年寄りになってしまったのは、私が挺身隊だったからです。テレビや新聞で、日本が挺身隊に連れて行った事実はないと言っている話を聞いたたびに、胸が張り裂けそうです。日本を相手に裁判でもしたい気持ちです」

1) 1991年告発の衝撃



藤目ゆき『性の歴史学』（1997年）

- 「公娼」制度の延長だったのだから、合法だった？
 - = 国家が女性の身体をモノのように管理・搾取してよい法律を作ったのだから、国家はその責任を果たすべきである。
 - = 悪法を作った誤りを正す = 責任をとって、謝罪と補償を全うすること
 - = **民主主義の基本原則**
- Ex. 合衆国における奴隷制度を、当時は「合法」だったのに、現在の基準で非難するのはおかしい、と誰が主張できるだろうか。

1) 告発の衝撃 1 研究・調査のはじまり



- 研究者・活動家たちの努力によって明らかにされたこと

- 1) 植民地主義の問題
- 2) 女性差別・女性に対する暴力のもつ、日本社会の寛容さの問題
- 3) 性暴力被害の特異性・持続性



いわゆる狭義の「強制連行」問題について
＝当時女性たちが置かれていた歴史的文脈を無視（女性に自由意志が存在したのか？）

＝性的サービスを「金銭」を介した売買行為とみなすことを当然視した考え方がいまだに存在する。

1) 告発の衝撃 2

「慰安婦」問題が示す問題の所在



・「A級戦犯」についても誤解がある。「A級戦犯」とは、極東国際軍事裁判＝東京裁判で、「平和に対する罪」や「人道に対する罪」という、戦争の終わったあとにつくられた概念によって裁かれた人たちのことだ。国際法上、事後法によって裁いた裁判は無効だ、とする議論がある」(安倍晋三『新しい国へ 美しい国へ 完全版』(2006年版に増補をつけて2013年に出版))。

・「侵略の定義は学界的にも国際的にも定まっていない。国と国との関係でどちらから見るかで違う」(2013年4月参院予算委員会にて、安倍晋三答弁)。



戦後レジームからの脱却が政治目標

1) 告発の衝撃 3 バックラッシュの始まり

子供から人権を奪った
河野談話
絶滅して子供を守ろう

検証！『従軍慰安婦』展
河野談話と人権を考える

4月26日(土)
会場：大和市生涯学習センター
〒227-8581 大和市大和町1-3-17
【電話】(046-261-0451)

とびきり！人権・歴史展「大和町」 東口東側101号
パネル展 (303 特別室)
10:30~18:00 **入場無料**

米国グレンデル市、プエナパーク市の
現状もお知らせします。
報告会 (101 講堂) 15:45~17:15

「河野談話」をめぐって
河野談話の真相を追求する
河野談話の真相を追求する
河野談話の真相を追求する

河野談話の真相を追求する
河野談話の真相を追求する
河野談話の真相を追求する



- 1993年 河野談話
安倍衆議院初当選
- 1994年 高校日本史教科書に「慰
安婦」に関する記述が登場
- 1996年 民間団体
『新しい歴史教科書を作る会』
1996年 「明るい日本」国会議員連
盟」発足

1) 告発の衝撃 4

安倍の政治家としての役割＝戦後民主主義の
否定

- 80年代以降の、東アジア情勢・国際的なポスト・コロニアリズム問題への関心とともに

- 1) 植民地主義の問題
- 2) 女性差別・女性に対する暴力のもつ、日本社会の寛容さの問題
- 3) 性暴力被害の特異性・持続性



- いまだ、日本で植民地問題(＝ジェンダー支配と密接に関連)が解決されていないことが、91年の告発が明らかにした。

- 「新しい歴史教科書を作る会」副会長の言葉

「日本は戦争犯罪国だとは、連合国側が自己の覇権を正当化するために創作した歴史観」

<http://www.tsukurukai.com/fumikara/fumi102.html> visited on 30th June, 2014]

- 自民党結党時(1955)の党の使命

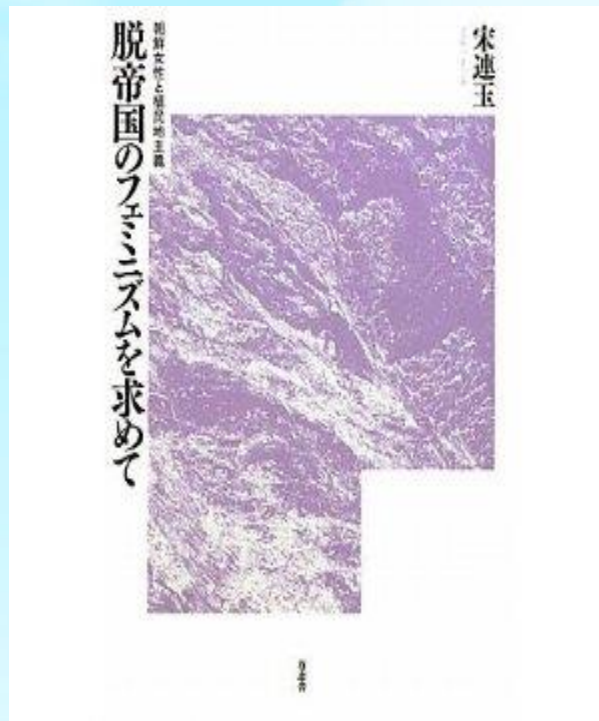
「初期の占領政策の方向が、主としてわが国の弱体化に置かれていたため、憲法を始め教育制度その他の諸制度の改革に当り、不当に国家観念と愛国心を抑圧し、また国権を過度に分裂弱化させたものが少なくない。」

[<https://www.jimin.jp/aboutus/declaration/index.html> visited on 30th June, 2014]

2) 日本におけるナショナリズムとはなにか？

- 自民党改憲草案(2012年)に
みる国家観・歴史観
1条(天皇制)⇒国家元首へ
9条(平和主義)⇒ 合衆国と一
体化した戦争する国へ
24条(両性の平等)⇒「家族の価
値」主義へ
↓
かつての「敗戦」はなかったことに
したい。今頃告発している「慰安
婦」だと名乗り出た女性たちは、
「嘘つきである」、「日本を侮蔑して
いる」、「共産党の陰謀」論。
- 単なる「反動」政治ではなく、広い世
界的文脈のなかで生じている政治
状況だと見るべきである。
- 9.11以降の国際秩序を「戦争状態」
とみる考え。
- ネオリベリズム(=市場経済至上
主義)における格差社会の広がり
- 競争社会のなかで排除される市民
の怒りの矛先が、見下せる存在へ
(朝鮮半島・中国・女性)
- 包摂の手段としての、「道徳観」「自
国への誇り」

2) 日本におけるナショナリズムとは何か 2

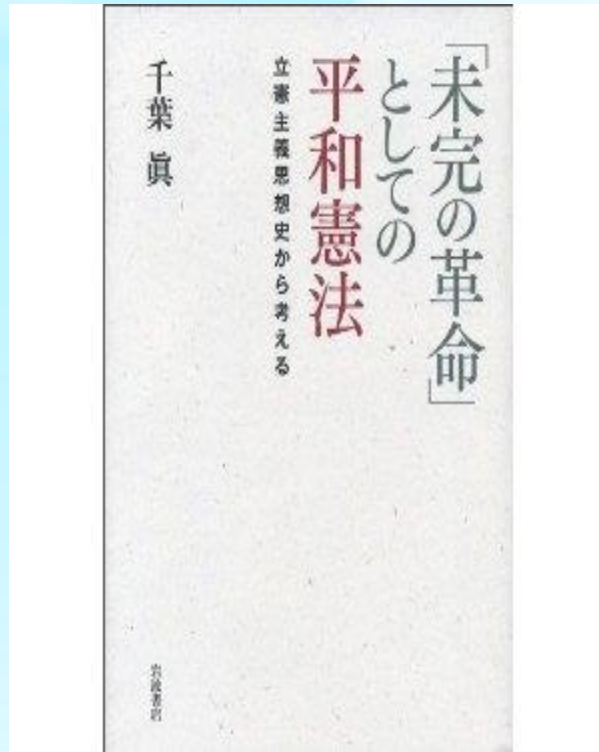


宋連玉『脱帝国のフェミニズムを求めて』
(2009年)

- 「『国民基金』とそれを支持する人びとから、韓国の運動団体が正義の暴力を振りかざし、日本の償い金を受け取ることを反対している、と本末転倒した批難がなされるが、当事者のさまざまな要求を都合よく選別して応えようとするのはむしろ、「国民基金」側の人びとである。当事者の思いを大切にしたいと言いながら、その思いの核心とでもいえる「日本の民主化」要求には応えようとしないばかりか、早々と断念したと言いつつ」(233頁)

3) 歴史の反省と民主主義の成熟 1

日本の民主主義が問われている



千葉真『「未完の革命」としての平和憲法』(2009年)

- 「人々の対話、審議、討議、参加、自由と平等、自己統治、差異への権利、共通善、多元主義、自己相対化、複数性、少数者や社会的弱者のエンパワーメント、アカウンタビリティなどが、民主主義の核心に横たわる重要なモメントとして広く論議されている」(67頁)。

=現在の〈わたしたち〉の在り方を批判的に問い返すことこそが、民主主義の重要かつ不可欠なモメント。

3) 歴史の反省と民主主義の成熟 2 民主主義の精神とは？

- ・なぜ、民主主義は「未完の革命」と考えられているのか？



- ・国家は無謬ではなく、むしろ常に権力は腐敗し、誤る。

＝そのために、国家の構成員に課せられた責任とは、権力者の動き(＝とくに立法と予算)をチェックし、批判にさらすこと。

＝過去の過ちを認めることは、過ちを認められなかった**現在の**〈わたしたち〉にとっては、よりよい未来を構想するための、チャンスに他ならない。

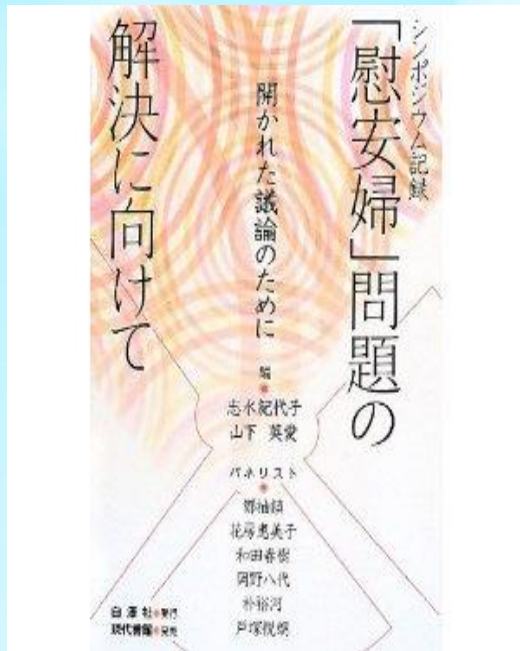
＝民主主義は、したがって現在における未熟さ・限界をつねに「反省する」。だから、過去における国家の過ちは、つねに**現在のレッスン**である。

- ・民主主義国家において法は国民の意思に他ならない

＝現在の日本政府の公式見解のように、「慰安婦問題に対して**法的に**責任がない」、と言い張ることは、責任をとる意志がないことを、全世界的に日本が表明していることに他ならない。

3) 歴史の反省と民主主義の成熟 3

「未完の革命」であることの、意味



山下英愛・志水紀代子編
『「慰安婦」問題の解決に向けて』
(2012年)

- 司法的枠組内で戦後補償問題を解決することはドイツにおいても、不可能だとされていることを考えれば、むしろ法的責任とは立法行為を通じて、すなわち最も**民主的な**政治的行為によって果たされるのが筋である。すなわち、日本政府は、ドイツ政府がそうだったように、**〈道義的責任があるのだから、国際法上法的に責任をとる義務はなくとも、政治的な責任をとるために、特別立法を行う〉**と日本国民を含め、対外的にも説得を続けることが可能だったのである。そして、NGO活動家やフェミニストたちが主張したのは、まさにこうした、民主的な道筋ではなかったのか[岡野八代「「慰安婦問題」と日本の民主化」、250頁]。

おわりに 1

法的責任とは、裁判所の責任ではなく、むしろ政治的な〈わたしたち〉の責任

元「慰安婦」にされた女性たちが
訴えている要望

- 明確に国家責任を認める「謝罪」と「賠償」
- 歴史教科書に事実を記述すること
- 記念碑などを建てて、記録し、語り続けること
- 二度と、このような過ちを繰り返さないことを、未来に向けた近い続けること
- 女性の尊厳を守り続けること

- 「日本は敗戦後、すべての植民地をはく奪されました。それでも残った植民地が一つありました。それは自国に暮らす女性たちです」[尹貞玉『朝鮮人女性からみた「慰安婦」問題』、1992年、199頁]。

＝国家はひとびとの尊厳を尊重するという不変の目的のための手段であり、その逆では決してない、という大前提をどこまで、社会の隅々にまで浸透させることができるか。そのさい、女性の地位については、一つの大きなメルクマールとなるだろう。

おわりに 2

今わたしたちがすべきこと、できること